

警察捜査と容疑者の人権

―琴海連続放火事件の取材現場から―

松浦 篤

読売新聞長崎支局の記者で松浦と申します。私は入社三年目で、昨年まで長崎県警を担当し、主に事件を取材させていたでおりました。①から順に番号がふられたスクラップを用意してきましたので、そちらを見ていただいてよろしいですか。記事を時系列で見てもらいながら、現場で取材する記者の思いを皆さんに感じていただければと思います。

まず①の記事を見て下さい。「林野火災二件発生 連続放火か」という二〇〇五年十月十九日付記事ですね。この記事に至る経緯を説明します。

記事を読んでもらいますと、「九月二十七日以降、車や廃屋、雑木林などを焼く不審火が相次いで発生している」と書かれています。○五年九月二十七日に、不審火が2件発生したのです。このとき私は、県警本部で別の事件を取材しておりまして、火事については、時津警察署に、電話で取材をしました。そうしたところ、人的な被害・けが人はおらず、燃えたものは雑木だけで、人の家などの財物ではない、ということが分かりましたので、現場に行くのをやめました。

さらに、火事が起きた場所について尋ねてみると、現場に行くためには、生い茂る雑木をかき分けて進む必要があり、「かなり大変だよ」と言われました。その時、なんでそんなところに火をつけたんだろうなと、ちよつと思議に思いながらも、記事にすることをためらいました。放火犯は一般的に、自分が火をつけて周りが騒いでくれることをすごく喜ぶ性質があるようなのです。ですから、必要最低限の報道にしないと、次の犯行を誘発するといった側面があるようでして、この日に記事を書くことはしませんでした。

この日、現場から県警本部の記者室に帰ってきたNHKの記者がいたのですが、その記者はスーツをドロドロにしています。そして、「なんであんなところに行つてまで火をつけたんだろ」と、不思議がつておりました。ほかの社の記者は、その様子を見ながら、「何で現場なんか行くんだよ。人的な被害もないし、苦勞してまで現場に行く価値はなかったんじゃないか」というふうに冷やかしていたのを覚えています。しかし、それと同時に「やっぱり変な事件だな」との印象が強く残りました。

その後、三件目の火災が十月二日にありました。これは、前島という時津町の沖にある島です。陸から（車などでは）行くことはできない場所です。これは別の事件（九月二十七日の不審火とは違つ）だな、と各社が判断したようです。この時点での記事の扱いは各社とも大きくありません。それから、十月は同じような不審火続きまして、役場の公用車が焼けたり、倉庫・廃屋が焼けたりと、被害は財物にまで及んできました。

そして、「これは何か関連性があるのではないか」との思いで記事を出したのが①の記事になります。①の記事は地方版の小さな記事ですけれど、背景には説明させていたぐらいの取材があります。②もやはり、同じように関連があるということで小さく記事にしました。

そこで③です。ぱつと見た感じでは、関連があるようには思わないですよ。ナマコを盗んだ疑いで漁師男性が逮捕された、という記事ですから当然です。しかし、われわれ現場の記者にとつては、小さな記事ですけれども、もの

資料①

林野火災2件 連続放火か

2005.10.19
琴海などで8件目

18日午後、琴海町の林野で不審火が2件発生した。時津署管内の琴海、時津両町では9月27日以降、車や廃屋、雑木林などを焼く不審火が相次いでおり、今回で計8件。連続放火の可能性もあるとみて調べている。

約300平方を焼き、約40分後に鎮火。午後5時20分ごろには、約1000㎡離れた場所で通報があり、約2500平方を焼いた。

18日の最初の不審火は、午後3時ごろ、琴海町戸根郷の農道脇の茂みから火が出ている、と近くの住民から119番通報があった。

資料②

事件 事故

▼琴海町でまた不審火
16日午前3時40分ごろ、琴海町尾戸郷の竹やぶから火が出ている、と近くの住民から119番通報があった。約5平方を焼き、約1時間後に鎮火した。時津署管内の琴海、時津両町では9月下旬から10月中旬にかけて、車や廃屋、雑木林などを焼く不審火が8件相次いだ。今回も火の気のない海沿いで起きており、関連を調べている。

2005.11.17

すごく大きな意味のある記事でして、事件が急展開した瞬間でした。ちょうど十二月二十四日のクリスマス夜の夜、ほんともう日付が変わるかどうかという時に、逮捕が発表されました。静まり帰った夜に、時津警察署まで車を走らせたことを覚えています。

その時にですね、われわれが大きな局面だと判断した背景に、どんな取材があつたのかを少し説明させていただきます。不審火は連続放火じゃないかと各社が疑いまして、地域の住民の方や、車を焼かれた役場の職員さん、警察の広報担当の方々を取材しました。いわゆる、取材合戦がスタートしました。

各社はそれぞれのルートで、一人の男を割り出したようです。それが、この男だったのです。私自身、「この男に、間違いないだろう」と判断した理由となつた証言で印象的だったのが、「男は自動車の運転免許を持っていない」というものでした。発生した十件の放火を地図に落としてみますと、すべて大村湾沿いにあるのが分かります。さらに、③と書いている前島には、陸から行くことはできないわけですね。また、火災のあつた場所をすべてたどつてみますと、およそ十五キロはある。車なしで移動するのはちよつと難しい上に、公共の交通機関もほとんどない地域です。どうやって火をつけるかというと、やはり船が一番便利なんです。男は漁師ですから、漁船を持っていました。つまり、この男には、犯行を実行できる条件がそろつていたわけです。私も実際に現場をたどつてみましたが、確かに船で行つたほうが火を付けやすいような場所が多かつたです。

それから、十二月二十四日の逮捕を迎えるわけなのですが、警察はやはり、放火の疑いで逮捕したかつたのですが、逮捕はできなかったわけですね。なぜ逮捕ができないのか、証拠がなかつたんですね（このあたりから登場する警察の捜査事情や狙いは、公的なコメントではありません。警察と記者の間で共有している認識とご理解下さい）。雑木が燃えているだけで、目撃者もないですし、物証もない。そつたときに、強引に逮捕してしまつと、「公権力によつて不当に身柄を拘束しているのではないか」といった批判を免れないわけです。

資料③

2005.12.26

事件 事故

▼ナマコ盗んだ疑い
時津署は24日夜、琴海町戸根郷、漁業志田賢一容疑者(54)を窃盗容疑で逮捕した。調べによると、23日正午ごろから24日正午ごろまでの間、自宅近くの漁港で、近くの知人の漁業男性(57)が海中にかごに入れて生かしていたナマコ約100匹(20万円相当)を盗んだ疑い。

資料④

2006.2.8

事件 事故

▼水道管を壊した疑い
時津署は7日、長崎市琴海戸根町、漁業志田賢一被告(54)を水道損壊の疑いで再逮捕した。調べによると、志田被告は昨年10月15日午後4時20分ごろ、自宅近くの雑木林で、地表に露出していた、旧琴海町所有のプラスチック製の水道管(内径約4寸)をたたき割った疑い。志田被告は昨年12月末に窃盗容疑で逮捕され、今年1月5日、長崎地裁に起訴された。

例えば、僕が何もしてないのに、いきなり一ヶ月以上も警察に身柄を拘束されて、「あなたはやっぱり無罪だから自由にしていいよ」と言われたら、やっぱり困ります。その間は、社会生活をおくれないわけですから。

警察は身柄を拘束する限りは、ある程度証拠を固めたうえで拘束、つまり逮捕する必要がある。放火では、逮捕する条件はそろわなかった。それで、警察は男性の家の前で二十四時間体制の張り込みをしました。二十代前半くらいの若い警察官が多かったときいています。雨の日も、雪の降る夜にも、男性とその周辺の人間の動きをずっと監視したそうです。そして、何か動きがあればすぐ警察署に連絡をいれるようにしました。「今、マスコミらしき男が家に近づきました」といったことも逐一、警察署にあげているわけです。

文字通り、身を削る捜査を入念に続けておられたわけです。その結果、窃盗を確認して、まずは身柄を拘束することに成功しました。この時点ではまだ、放火で立件できるかどうかのメドはたっていないですね。この逮捕でよかった点は、仮に放火犯が男性で間違いなかった場合、同様の火事が起きることはありえないということです。事実、この人が身柄を拘束された十二月二十六日以降、不審火は発生していません。

しかし、警察は放火での再逮捕には難航したようです。やはり物証や目撃者がいない場合、本人に自供してもらうことが理想なんですけれども、なかなか自供しません。

それで④にいけます。放火ではなく水道損壊という容疑での逮捕です。それでも、なかなか放火での再逮捕は難しい。

そういった中、われわれ記者は、「一連の不審火は本当に男性がやったのか？」という疑いを持つ必要が出てきました。もしかしたら警察の捜査に誤りがあり、犯人は男性ではないのではないか、という考えが生まれ始めました。逮捕に至るまでの間、万が一、放火で立件ができなかった場合を想定して、警察の捜査に疑問を投げかけるような記事を書く準備を進めました。

しかし、幸なことに、警察の粘り強い捜査は実り、⑤を迎えます。やっと放火の容疑で逮捕しました。これが二〇〇六年三月二日で、最初の発生からすでもう半年近くたつています。各社ともほととした表情をしていたのを覚えています。厳密に言くと、まだまだ否認していましたが、裁判で有罪判決が出たわけでもありません。そのうえ、逮捕したのは十件のうちの一件だけなんですね。まだまだ安心できる状態ではないのですが、警察としてもとりあえず、安心したと思います。

それからしばらくして、未解決になつて残っている残り九件について、全然違つ人の犯行なのではないかという「うわさ」も出てきました。そんな中、関係者から「ほとんどの放火について自供した」という話を聞くことができました。これが四月十三日の記事です。取材をしたのは四月十日の深夜でした。翌日につめの取材をした上、四月十三日付で「放火の男自供」という記事を書くことができました。放火事件は地域の人たちに対し「自分の車や家が燃やされるんじゃないか」という不安を与えるものです。一日でも早く連続犯が特定され、容疑者は警察に拘束されているんだという報道をすることが、住民にとって一番の安心材料になります。「どこの社が、最初に書くか」。いい意味で取材争いが、そこにあつたと思います。

最後結論が、⑧ですね。昨年の八月五日、男性は懲役六年の判決を受けました。実刑判決です。これで事件は、一年ぐらひかけて終息を迎えました。同時に、その警察の不当な逮捕じゃないかという疑いも晴れました。これもひとえに、警察の方々の治安を守ろうとする高い志と、たゆまぬ努力の結果であることは間違いありません。

以上で終わります。少しは事件を取材している記者の気持ちをわかっていただけたらと思います。

資料⑤

(第三種郵便物認可)

2006年(平成18年)3月2日(木曜日)

公用車に放火した疑い

窃盗の55歳男再逮捕

旧琴海、時津町
連続不審火 他9件の関連調査

旧琴海町と時津町で昨年起きた連続不審火で、時津署は1日、このうち1件について、長崎市琴海戸根町、漁業志田賢一被告(55)(窃盗と水道損壊罪で起訴)を建造物等以外放火の疑いで再逮捕した。容疑を否認している。同署はほかの9件についても関連を調べている。

調べによると、志田被告は昨年10月14日午前5時50分ごろ、同市長浦町の琴海町役場(現在は市琴海行政センター)の駐車場で、止めてあった公用車に放火し、3台を全焼させ、別の1台の一部を焼いた疑い。水道料金を巡り、数年前

から旧琴海町との間でトラブルがあったという。一連の不審火は昨年9月

から11月にかけて発生、雑木や廃屋などを焼いた。現場はすべて大村湾に面し、船でしか行けないような場所もあることから、同署は、船を所有し周辺の事情に詳しい者の犯行とみて捜査。近くに住む志田被告が浮上し、昨年12月、ナマコ100匹を盗んだとして窃盗容疑で逮捕していた。

連続不審火の現場(日付は発生日)



資料⑥

2006年(平成18年)4月13日(木曜日)

連続不審火の現場
(日付は発生日)



旧琴海、時津町連続不審火

公用車放火の男自供

時津署が追送検へ

旧琴海町(長崎市)と時津町の連続不審火で、うち一件について建造物等以外放火の疑いで逮捕、起訴された長崎市琴海戸根町、漁業志田賢一(被告55)が、時津署の調べに対し「ほかの不審火のほとんどについても「自分が火を付けた」と自供した。同署は詰めの手捜査を進めており、長崎地検に追送検する方針。

不審火は昨年9月27日から

11月20日の間に10件発生。雑木林や廃屋などを焼いた。志田被告は、同市長浦町の旧琴海町役場(現・市琴海行政センター)駐車場で10月14日に起きた不審火について、公用車に油をかけて火を付け、全焼させたとして起訴されている。当初はこの事件について否認していたが、その後、犯行を認め、同署がほかの不審火についても追及した結果、認める供述をした。

公用車の放火について、志田被告は町職員(当時)の対応に不満を抱いていた、とされる。水道料金を巡り、数年前から町との間でトラブルがあったとい

一連の現場はすべて大村湾に面し、船でしか行けない場所もあることから、近くに住み、船を所有する志田被告が浮上。同署は昨年12月以降、別の盗みなどで逮捕し、追及していた。

旧琴海、時津町
連続不審火

別の放火で追送検

2006.4.14

旧琴海町（長崎市）と時津町の連続不審火で、時津署は13日、長崎市琴海戸根町、漁業志田賢一（被告）（55）（建造物等以外放火罪などで起訴）を、うち一件に関する森林法違反（森林放火）と、旧琴海町職員への脅迫

の疑いで長崎地検に追送検した。
調べによると、志田被告は昨年9月27日夜、同市琴海村松町の雑木林で、竹や木切れにライターで火を付け、雑木約350平方メートルを焼く。不審火は昨年9月27日から11月20日の間に10件発生。志田被告は同役場駐車場での10月14日の不審火について起訴され、ほかの6件についても「自分が火を付けた」と自供した。

資料⑦

一連の犯行について「町職員に水道料金を払わなければ停水すると言われ、腹が立った」と話している。

資料⑧

2006.8.5
旧琴海町で放火
被告に懲役6年

旧琴海町（現・長崎市）役場駐車場で公用車に放火したなどとして、建造物等以外放火などの罪に問われた長崎市琴海戸根町、漁業志田賢一（被告）（55）の判決が4日、長崎地裁であった。

林秀文裁判長は「身勝手に自己中心的な動機であり、再犯の恐れもある」として懲役6年（求刑・懲役7年）を言い渡した。

判決によると、志田被告は旧琴海町職員の対応に腹を立て、昨年9月27日、木切れなどに灯油をかけ放火し、山林約350平方メートルを焼いた。さらに、10月14日に役場の公用車に油をかけて火をつけ、全焼させたなどした。

志田被告は同町などで起きた連続不審火で、ほかの5件の放火を認めている。